

子どもだけじゃない！

子ども食堂を取り巻く現状

〈名称の与える誤解〉



「かわいそう」
「生活に困っている人が行く」...
実際の状況と異なるイメージ

(2019「小・中学生の保護者を対象とした『子ども食堂』に関するインターネット調査」より)

子ども食堂
＝地域交流拠点

〈子どもの貧困、親の貧困〉

自己責任ではなく、選択肢を奪われるような外的要因の大きい貧困
「絶対的貧困（生命に関わる）」を想像しがちですが、

「相対的貧困」の持つ問題も...

相対的貧困とは、その国の生活水準と比較して困窮した状態を指します。
2018年における日本の相対的貧困率は15.8%で、子どもが居る現役世帯のうち大人が一人の家庭では48.2%が相対的貧困であると調査※1が出ています。

モノの貧困

- ・ 金銭の不足
- ・ 食の不足（栄養不足）
- ・ 学用品の不足 など

機会の貧困

- ・ 部活動に参加できない
- ・ 進学を断念
- ・ 親に代わって家事
- ・ アルバイトをせざるをえない
- ・ 健全な発達のために必要な機会・モノが与えられない
- ・ 貧困の中で育ち大人になっても貧困から抜け出せない

見えにくい

無視されやすい現状

貧困は自己責任か？

計画性がない
怠惰
不運

教育の不足
支援の不足

また、労働の不安定化や所得格差、社会保障の後退が貧困を進行・深化させる側面も。

子どもの居る現役世帯のうち、一人親家庭の相対的貧困率は48.2%。調査※2によると、父子世帯に比べて母子世帯の方が世帯年収が低く生活に困窮している。

低学歴
低賃金

子どもの貧困

大人の貧困

貧困の連鎖

生まれた子供が...

※1 2019国民生活基礎調査 各種世帯の所得等の状況
※2 黒谷佳代他「小・中学生保護者を対象とした「子ども食堂」に関するインターネット調査」2019、日本公衛誌